令和７年２月２５日

令和６年度　とうきょう すくわくプログラム推進事業　活動報告書

園名	新宿区立津久戸幼稚園
所在地	新宿区津久戸町２－２

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

音

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子供たちの興味関心、園の特色など）

・本園は神楽坂近くに位置し、地域のお祭りや阿波踊りに参加しているため、日頃から日本の伝統楽器の音を聴いたり、触れたりする機会がある。また、新宿区ではエイサー祭りなど沖縄の伝統芸能に触れる機会もある。

・今年度小学校との合同音楽会に参加し、いろいろな楽器や音に触れる機会があった。

・遊びの中でも楽器を遊びに取り入れたり、音楽を鳴らして体を動かしたりすることを楽しんでいる。

２．活動スケジュール

・１２月（音楽会に向けて・リトミック講師招聘）

・２月　（こどもかいに向けて・三線講師招聘・お囃子講師招聘）

・３月　（修了・進級に向けて・リトミック講師招聘）

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・シェイカー、シャンベ、三線、三味線など新たな楽器を購入し、遊びの中で自由に触れられるようにし、音楽会やこどもかいの活動につなげた。

・どんぐりなどの木の実、ビーズ、いろいろな空き容器や空き箱、ペットボトルなど様々な材料を用意しておき、遊びの中で試したり、工夫したりできるようにした。

４．探究活動の実績

＜活動の内容＞

＜３歳児＞

・どんぐりを乳酸菌飲料の容器に入れたものを保育者が作り、鳴らしているのを見た幼児がまねをして作り始めた。保育者は一緒に鳴らしたり、音楽をかけたりすると、幼児は音楽に合わせて鳴らし始めた。翌日自分たちで音楽を流し、繰り返し鳴らすことを楽しむ姿があったので、音楽会に手作りマラカスを取り入れることにした。

・音楽会後、製作コーナーにある広告紙を細く丸めたものや段ボールの切れ端、ストローなどを空き容器に入れて、いろいろなマラカスを作る様子が見られた。

＜５歳児＞

・リトミックでシャンベに触れ、興味をもった幼児が多くおり、遊びの中でも叩くことを繰り返し楽しむ姿が見られた。

・こどもかいが近付き、合奏曲を学級で相談すると、太鼓がメインの曲を選び、どの楽器をどのように鳴らすかなど、合奏の組み立てを学級や楽器ごとに相談して決めた。シャンベチームは持ち方や叩き方などどうすればよりよく叩けるか、どの叩き方が音楽に合っているかなど試しながら進めていた。

＜活動中の子供たちの姿・声、子供同士や子供と保育者との関わり〉

＜３歳児＞

・自分のマラカスができると、繰り返し鳴らしたり、自分の作ったウレタン積み木の家に持ち込んだりしていた。保育者が一人一人のマラカスにマークシールを貼ると、「これは○○ちゃんのだね」と言ったり、自分のものを大切そうに片付けたりしていた。

・どんぐり以外の材料を空き容器に入れて、自分なりのマラカスを作った幼児は、入れるものによって、音が異なることに気付いていた。

＜５歳児＞

・合奏の振り返りの際は、「ここをこうしたほうがいいと思う」「～さんの太鼓の叩き方がよかった」などアイディアを出し合い、よりよくなるようにみんなの考えを共有するようにした。

・保育者は幼児の考えや意見を尊重するようことを大切にし、学級の一員として、発言をするようにした。

＜活動の様子＞

活動の様子が分かる写真を 2 枚以上貼付してください。
（HP などで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用ください。）

５．振り返り

（振り返りによって得た保育者の気づき）
・いろいろな楽器や音楽で体を動かすリトミックなどに接する経験を増やすことで、日常の遊びの中に音やリズムを取り入れるようになり、表現力が豊かになった。
・幼児が自由に試したり、繰り返し取り組んだりできるように、いろいろな材料や素材を用意しておく必要があることに気付いた。
・幼児の興味関心を逃さずにとらえ、材料や環境を用意したり、声を掛けたりすることが幼児の「楽しい」「もっとやってみたい」という気持ちにつながる。
・園全体で情報を共有したり、意見交換をしたりすることで担任が気付かなかった幼児の姿や新たな援助の方法に気付くことができた。

以上